

第2章 浦添の景観特性と課題(現況編)

1. 景観の捉え方

景観とは、都市や地域を構成する自然、建築物・工作物などの物的環境についての空間あるいは見え方、感じ方と捉えられます。

この見え方、感じ方は、「対象」と「観る者」の相互作用であり、単に視覚的な事象に止まらず、観る者のその時の気分や環境としての気候、匂い、音、肌ざわり(例えば歩道や広場の舗装材等)などと密接に関連しています。このように、景観の形成は、人間の知覚全体で把握する空間あるいは場の整備を対象としています。

また、景観は、区切られ独立した空間あるいは場、及び時間を対象としつつも、そこに都市及び地域全体の形態・活動・時間(歴史)の脈絡の中に位置づけられています。すなわち、景観は、都市や地域の規模、そこで繰り広げられる諸活動や市民生活のスタイル、長年にわたって培われた歴史、文化の蓄積を反映しているといえます。こうしたことから、景観の形成は、その都市・地域の固有な表現としての性格をもちます。

このように、景観のもつ性格が多様で総合的であることから、今後、良好な景観の形成に際しては、以下の諸点に留意しながら進めていきます。

(1) 多元的な対応

現代社会は多様な価値観をもつ市民で成り立っています。ある人が「好き」と評価しても、別の人は「きらい」と評価する場合があります。景観形成施策においては、こうした評価の違いが必然的なものになります。こうした中であって、景観形成施策を進めていくためには、協働の景観まちづくりの観点から評価の違いを相互に十分議論し、洗練された理解を深め工夫に努める必要があります。

(2) 原点と展開理論の明快化

一方、浦添市の景観は「ここから始まる」といった、原点となる景観は存在しています。これだけは大切にしていく必要があるといった景観を明確に評価していくべきです。こうした景観は、本計画においては、「骨格別景観まちづくりの方針」に掲げられている景観要素といえます。

(3) 夢の重視

景観形成の理論は、しばしば過去と現状の将来への保全に偏りがちです。もちろん良好な景観資源の保全は当然のこととして重視していかなければなりません。しかしながら、こうした良好な資源も、過去においては極めて周辺と異質で、当時としては初めて見るような新しい要素であったかもしれません。現在進める景観まちづくりは、将来に向けた新しい良好な資源の創造という観点も重視しながら取り組む必要があります。

2. 浦添の景観の変遷

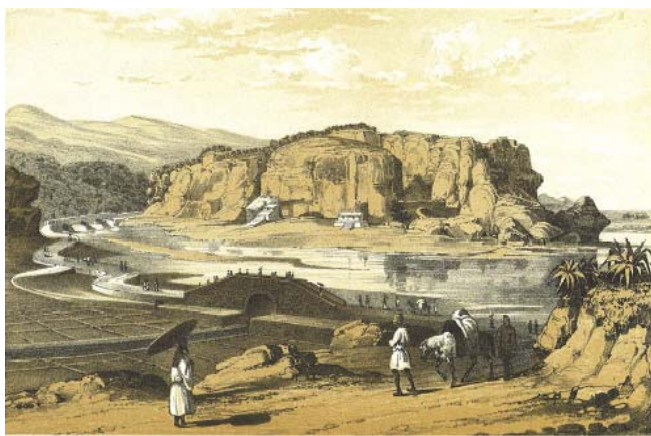
本市のかつての豊かな風景について、以下の記述資料があります。「浦添市はかつて、山青く水清い、平和郷であった。そこでは、毎年闘牛が行われ、綱引き、棒術、獅子舞い等の民俗行事も盛んで豊かな自然環境は私たち先祖の生活を営々とはぐくみ、育ててきた。」（「写真にみる浦添のあゆみ」）



城間の闘牛大会（昭和30年代）

(1) 琉球王都を生んだ浦添

浦添の歴史は古く、沖縄歴史上、最初に王統が確立した地域として知られています。12世紀には歴史の表舞台に登場し、伊祖城跡から東方の浦添城跡にいたる丘陵地帯を中心地に、1187年から1406年までの220年間にわたり舜天、英祖、察度の三王統により、政治、経済、文化の中心地として富み栄えていました。その後、王都が首里に移ってから浦添グスクの麓に間切り番所が置かれ地域の中心的な地となり、浦添出身の尚寧が第二尚氏第七代国王に即位するなど、首里王府とのつながりは続きます。



近世後半の牧港津口付近（1854年）

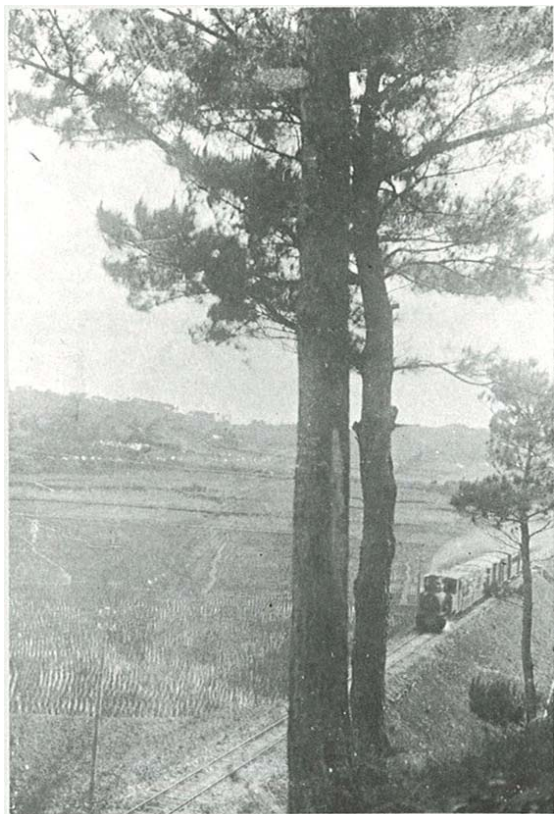
(2) 昭和初期～戦前

<農村の風景>

本市のかつての豊かな田園風景について、以下の記述資料があります。「王都が首里に移った後は、平和で静かな純農村社会へ移行し、戦前までサトウキビづくり、イモや野菜づくりの盛んな地域として知られていた。美しい自然環境の中に人々の暮らしがあり、今日では想像できないような、古きよき時代の浦添がそこにはあった。」（「写真にみる浦添のあゆみ」）

<集落の風景>

本市の戦前の集落の風景について、以下の記述資料があります。「戸を開け放して、蚊張の中でクバ扇を使いながら寝返りをうつと、満天の星空が見え、馬車挽（バシムチャ）のナークニーが聞こえて来たりした。緑豊かな屋敷林に囲まれた村のたたずまい、その緑の村（字）を結ぶ道は並松（ナマチ）と呼ばれる美しい松並木の木が連なっ

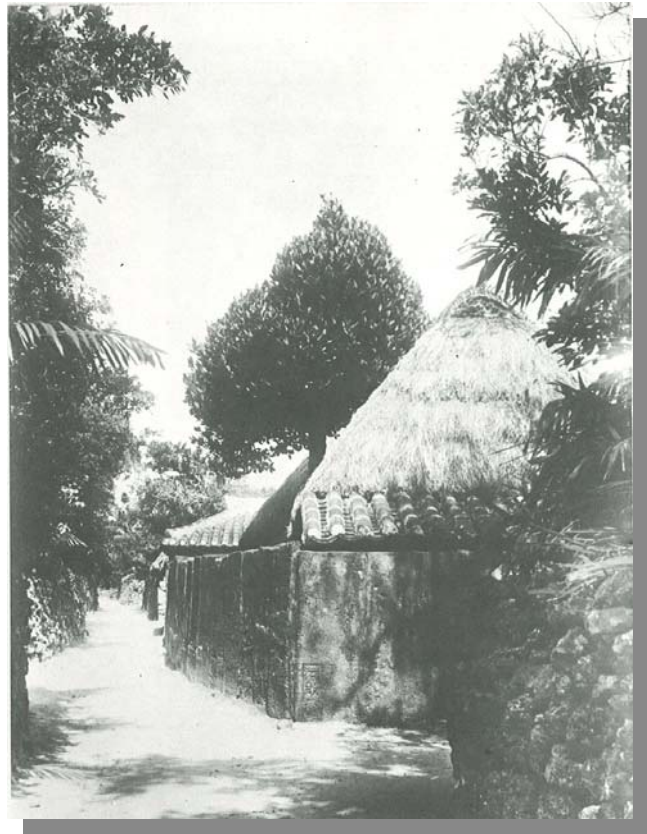


軽便鉄道が牧港付近の田園地帯を走る（昭和10年代）

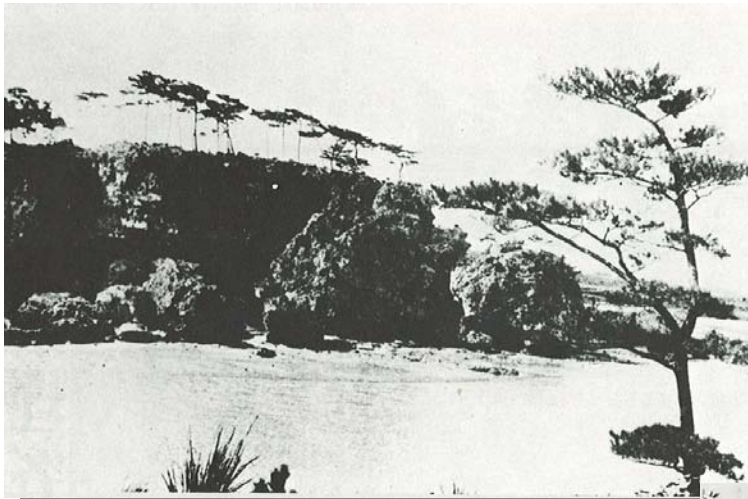
ていた。浦添街道(県道 153 号線)や仲間一当山の街路樹は大正初期までに消滅したが、県道(現国道 58 号)の並松は戦前まで残っていた。村は村屋(ムヤー)を中心におき、東西南北の道で区画され、要所には防火用の溜池があり、各屋敷はほとんど石垣で囲われ、その中に屋敷林があり、建物の大部分は茅葺で少数の瓦葺・竹茅葺があり、屋敷内にはミカン・バナナ・パパイヤ等が豊かな実りをみせていた。・・・(「写真にみる浦添のあゆみ」)

<入江の風景>

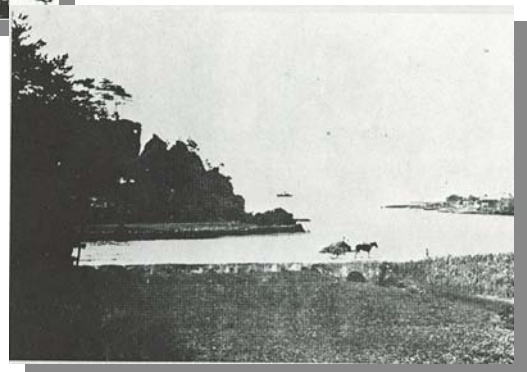
牧港入江は、本市の東部から北に流れる牧港川の河口部にあり、12～13 世紀頃は海外貿易港として栄えていました。また、地名の牧港は「為朝伝説」に由来するところでもあり、周辺には「テラブ洞」等の資源もあります。入江付近は、4～20m程の琉球石灰岩の丘が立ち並び、その風景は中頭郡でも名所の一つに数えられ、入江付近の写真は絵はがきとして販売される程であり、戦前まで美しい入江の風景でした。(戦後は、米軍道1号建設や埋立、建物の建設等により、昔の面影は薄れている)



屋敷林・石垣、茅葺、赤瓦葺等が見える小湾集落 (昭和 15 年)



写真は絵はがきとして販売 (昭和 9 年)



国頭街道の要所でもあった牧港橋を往来する荷馬車と入江風景 (昭和 2 年)

(3)戦後～本土復帰～現在

<住宅地の変容>

激戦地のひとつであった浦添では、緑豊かな集落や歴史文化遺産、自然等の資源は破壊されました。人々は收容所のテント生活から、2×4(ツーバイフォー)の骨組み住宅資材、屋根はテントまたは茅葺きの戦災復興住宅が規格住宅として配布されました。昭和25年には木造瓦葺きで12.5坪が標準となる建物が復興金融基金によって融資されるようになりました。

このように、戦後の住宅は、テント→規格屋→復興金融基金住宅と進み、昭和40年代からコンクリート建築全盛の時代へと移行した。また、かつての石垣からコンクリートブロック塀、木造瓦葺きからRC造が主流となり、集落景観の変容もみられます。



戦後、いち早く復興した屋富祖通りには映画館、銀行、商店が建ち並び、基地労働者の下宿人も昭和31年頃から増えた。(昭和36年)



浦添グスクの麓に広がる住宅地区(昭和43年頃)



浦添グスクの麓に広がる住宅市街地。背後の緑の丘陵地にかつて浦添グスクが在った。(平成19年)

<公共事業等>

昭和30年代頃から那覇市からの人口流入の影響でスプロール的に都市化が進行し、それに伴い様々な都市問題が顕在化しました。公共事業が本格的に行われるようになったのは、昭和34年の勢理客城門原の埋立工事からで、次第に、市道を中心に一般道路の舗装や側溝等の改良事業が促進され、国道・県道においても舗装や拡幅拡

張等の改修が行われました。昭和40年代には、小湾の公有水面埋立着工、小湾川の護岸工事、緑丘団地や茶山団地等の宅地開発等に取り組み、さらに昭和45年の市昇格を機会に、浦添ニュータウンや当山ハイツ等の宅地開発や、大平インターチェンジの開通など、社会資本の整備が行われました。

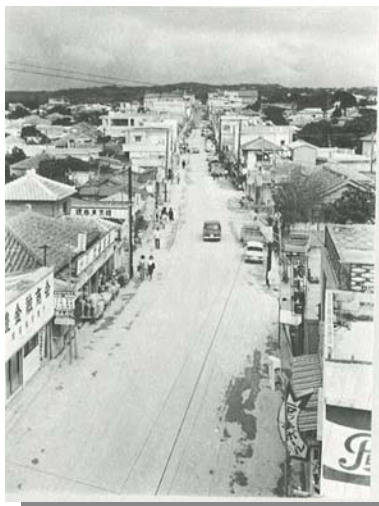
特に本土復帰後の昭和47年以降は、本土法の適用を受け、昭和47年の那覇広域都市計画区域決定、伊祖区画整理事業の着手、港川公有水面埋立竣工、伊祖メガネトンネル開通、県営・市営住宅、市民会館など、都市基盤の整備を推進してきました。



浦添市をほぼ南北に縦断する国道330号線の施工中（昭和47年）



浦添市をほぼ南北に縦断する国道330号線の現在の状況（平成19年）



昭和30年代頃の屋富祖通り



昭和53年の浦添市の航空写真

3. 浦添の景観資源

(1) 骨格的資源

骨格的資源について、自然、歴史・文化、都市軸、市街地、眺望の5つの視点からまとめました。

① 自然

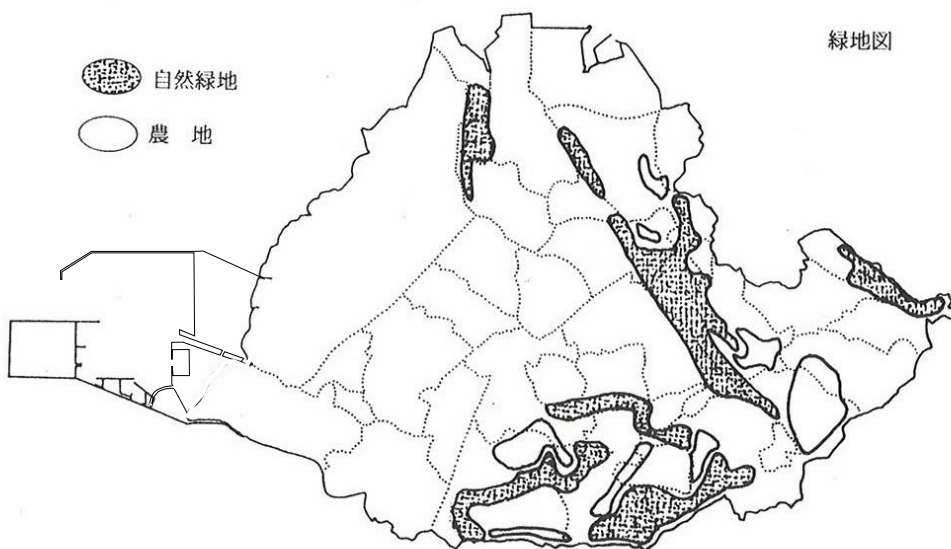
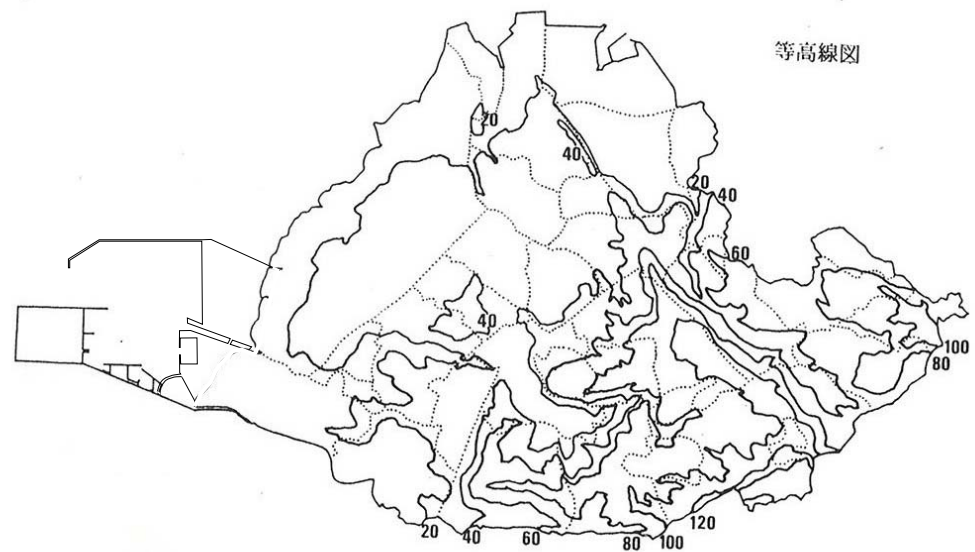
自然系は、地形、自然緑地、生産緑地、海岸線で構成されます。

地形は、本市南東部を最高点として概ね北西方向(海岸方向)へ傾斜しています。また断層や河川浸食により地形は極めて変化に富んでいます。

自然緑地は、市街地を取り囲むように、浦添断層崖、丘陵・斜面地に分布しています。

生産緑地は、市東部の市街化調整区域を中心として国道 330 号より東側の一部に残っています。

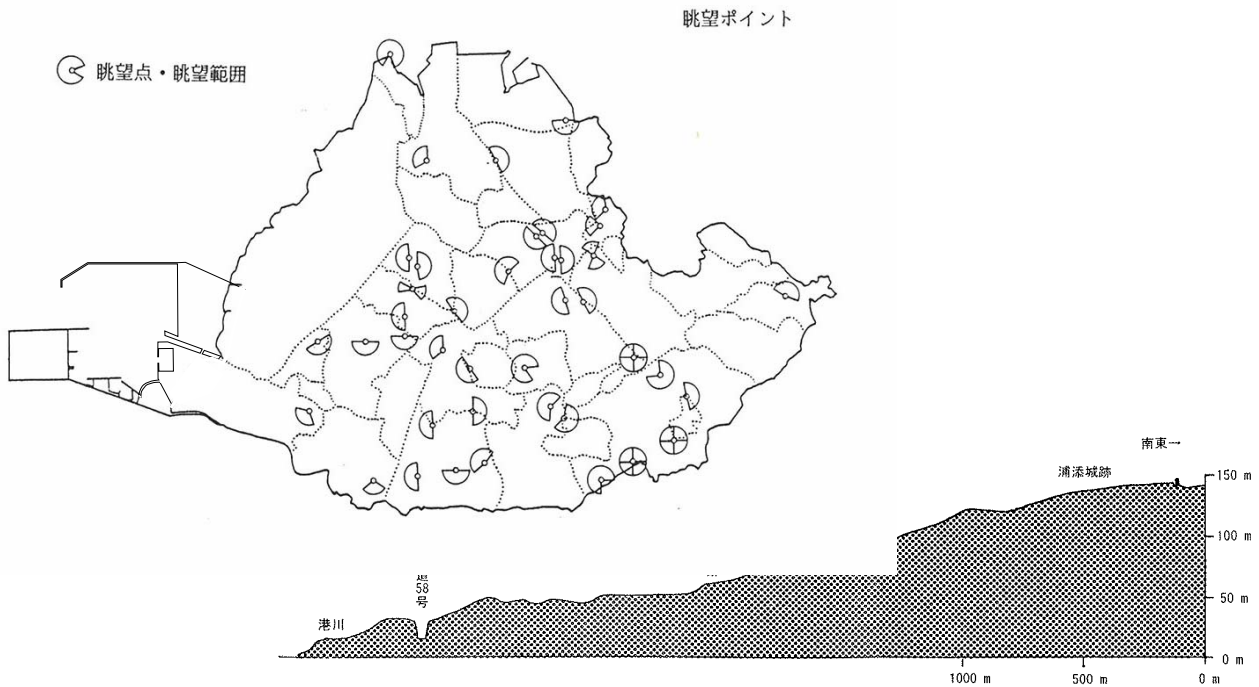
海岸線は、軍用地が大半を占め、その他は埋立地として港湾、漁業関連施設等として利用されています。また、沿岸はイノー、リーフが発達し、沖縄独特の海岸景観を生み出しています。



②眺望

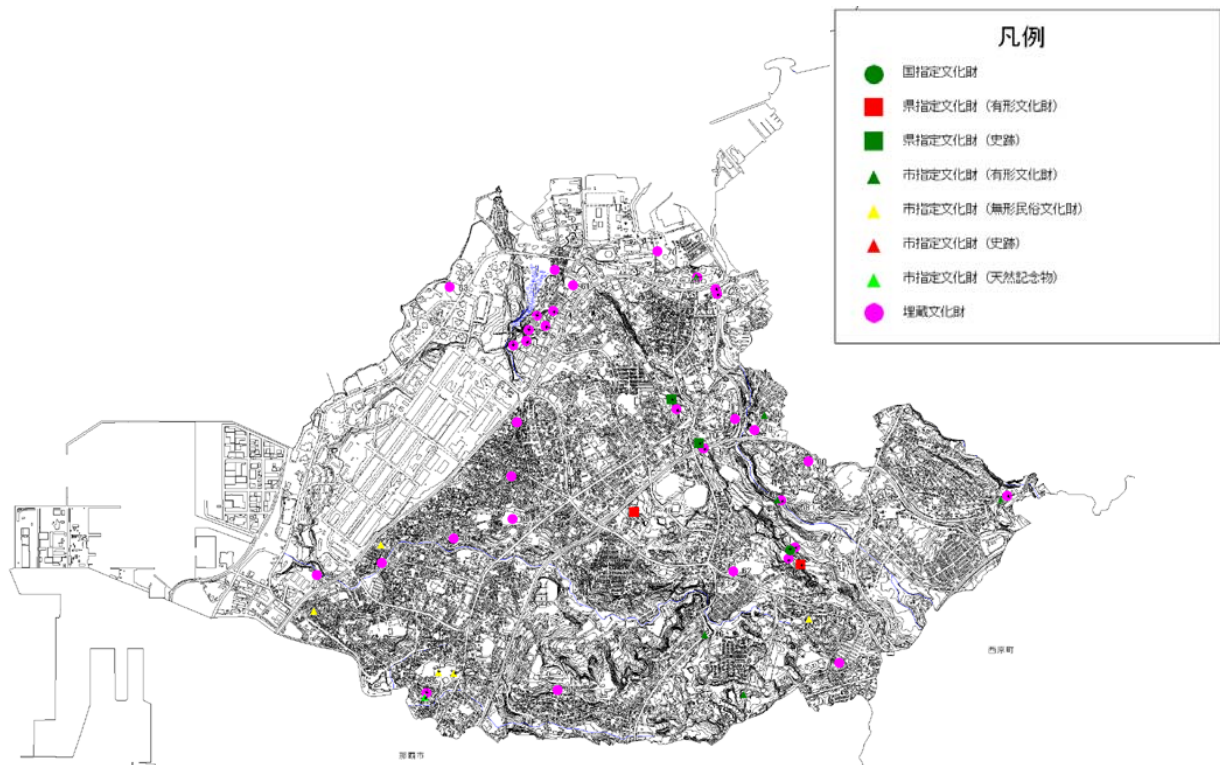
牧港から仲間にかけて延びる浦添断層崖上に多数の眺望点が点在します。その他の眺望点は、国道 330 号を境にして、東側は台地や丘陵地の頂上部並びに斜面地、西側は市街地内の微高地や小丘陵上と性格を異にしています。

全体の地形が、海に向かって傾斜しているため、市内の各所から海への眺望が開けています。



③歴史・文化

伊祖城跡から浦添城跡に至る空間に歴史・文化資源は、数多く点在しています。また、浦添大公園、浦添グスクの整備をはじめ、安波茶石橋、国立劇場おきなわ等の歴史・文化的な都市機能の充実も図られています。



④都市軸

都市軸系は、道路と河川で構成されます。

道路は、広域幹線となる国道 58 号、国道 330 号とそれを補う県道 38 号線、153 号線、241 号線により幹線ネットワークが形成されています。沿道はほとんど宅地化され、国道 58 号、県道 38 号線沿線は、商業・業務機能が集積し、沿道景観を特徴づけています。

河川は、市の北側を牧港川、中央を小湾川、南側を安謝川がそれぞれ北流、西流しています。短い流域にあって、田園地域、市街地を流れ、変化に富んだ河川景観となっていますが、親水性には乏しい状況です。



⑤市街地

市街地系は、住宅地、商業地、工業地、港湾地域、軍用地で構成されます。

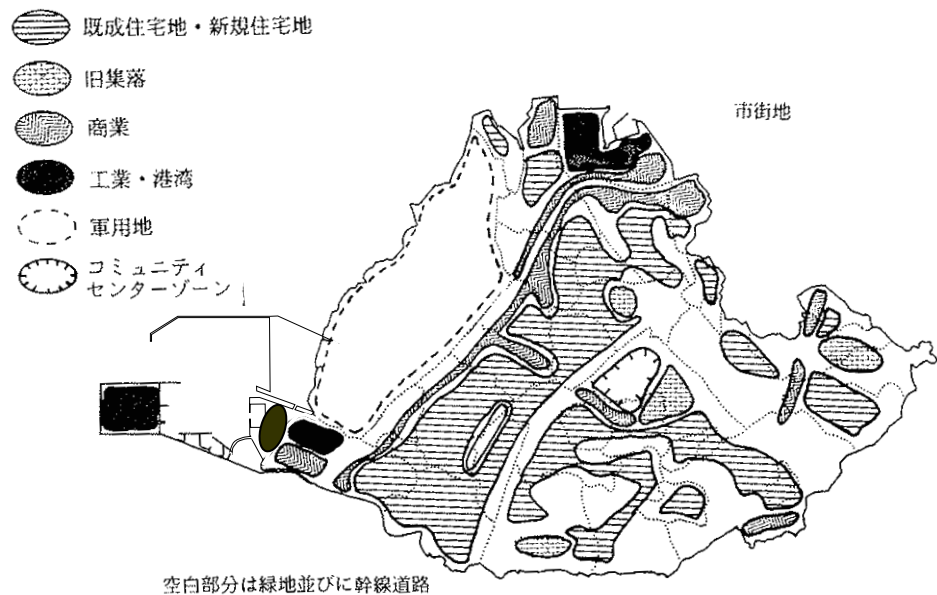
住宅地は南斜面に位置し、旧来の地割を残す集落、戦後すぐに形成された既成住宅地、区画整理等によって新たに形成された住宅地、大規模開発による住宅団地に大別されます。

商業地は、国道 58 号沿道の広域型と県道 38 号線、県道 5 号線及びパイプライン沿道の地域中心型に大別されます。

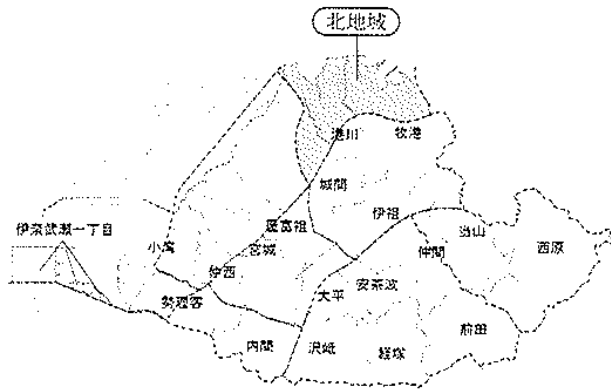
工業地は、発電所が大きな面積を占め、発電所施設はシティゲートの役割にもなり、遠方からのランドマークとなっています。

港湾地域は、水際線と一体となる景観であり、海岸部の大半を軍用地が占めている本市にとっては貴重な水辺空間となっています。

軍用地は、海岸部のかなりの面積を占め、跡地利用計画等、今後の展開が期待されると同時に景観におけるウォータフロントとしてのポテンシャルの高い地域でもあります。



1. 北地域

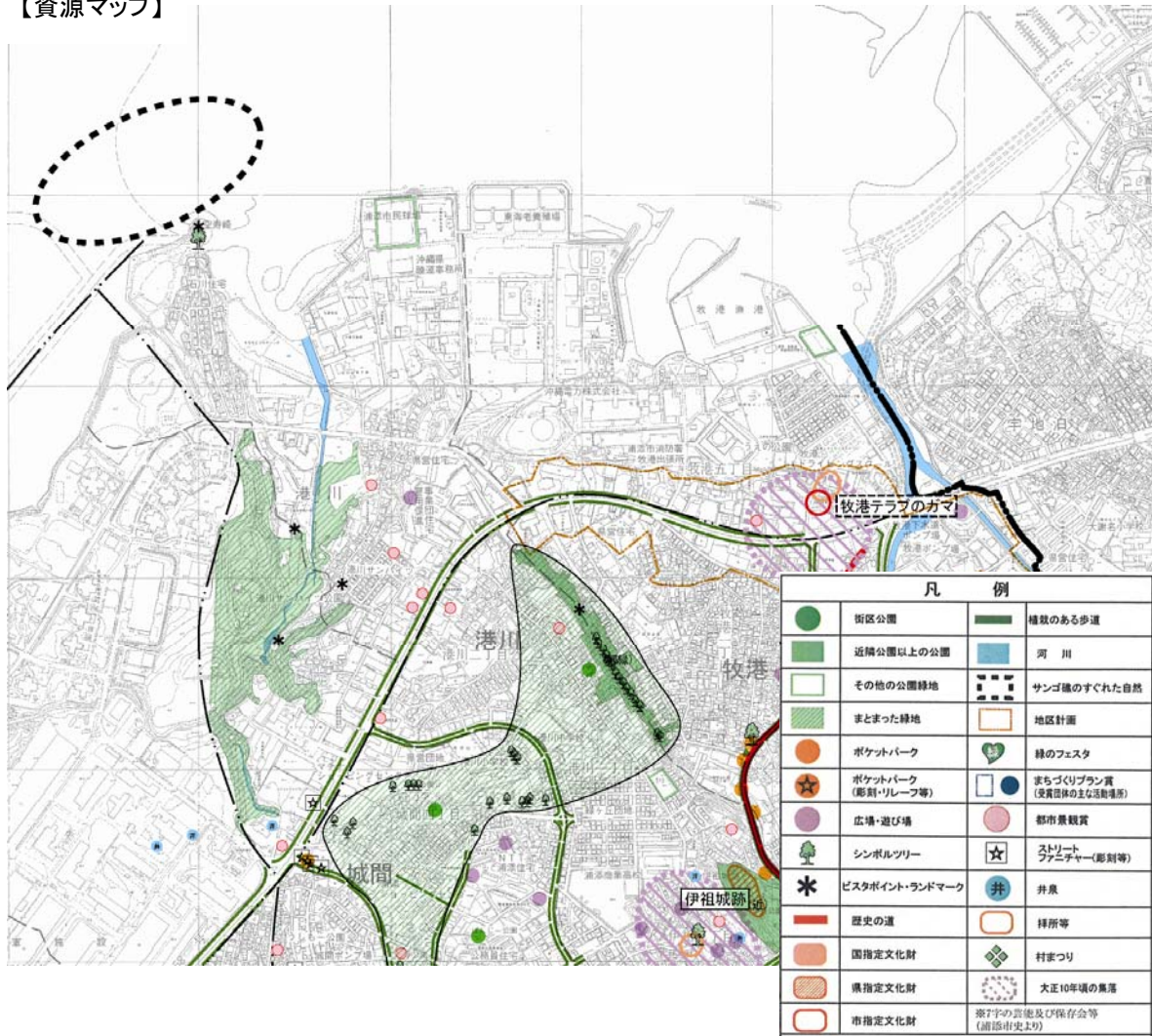


地域資源

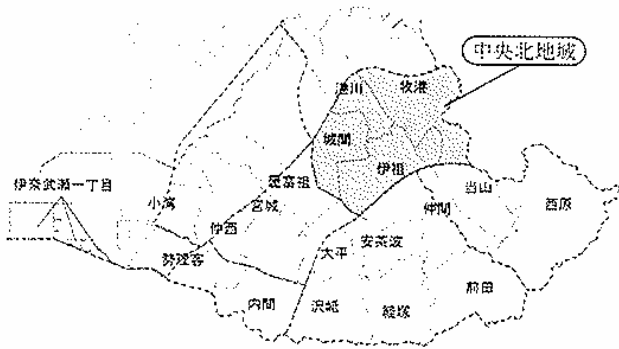
| | |
|----------|--|
| 水・緑 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 牧港川、宇地泊川（比屋良川）、シリン川 ・ カーミージー、里浜 ・ 河川沿い・河口部の緑地 |
| 歴史・文化 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 牧港テラブのガマ ・ 各地の御嶽、樋川、拝所 |
| 場・コミュニティ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 牧港自治会事務所 ・ 上野自治会館 |
| 主な施設 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 国道58号、西海岸道路 ・ 浦添市消防署牧港出張所、沖縄総合事務局陸運事務所、沖縄県自動車税事務所、浦添宜野湾漁港 ・ 牧港中央病院 |

地域を構成する大字
港川、牧港、城間

【資源マップ】



2. 中央北地域

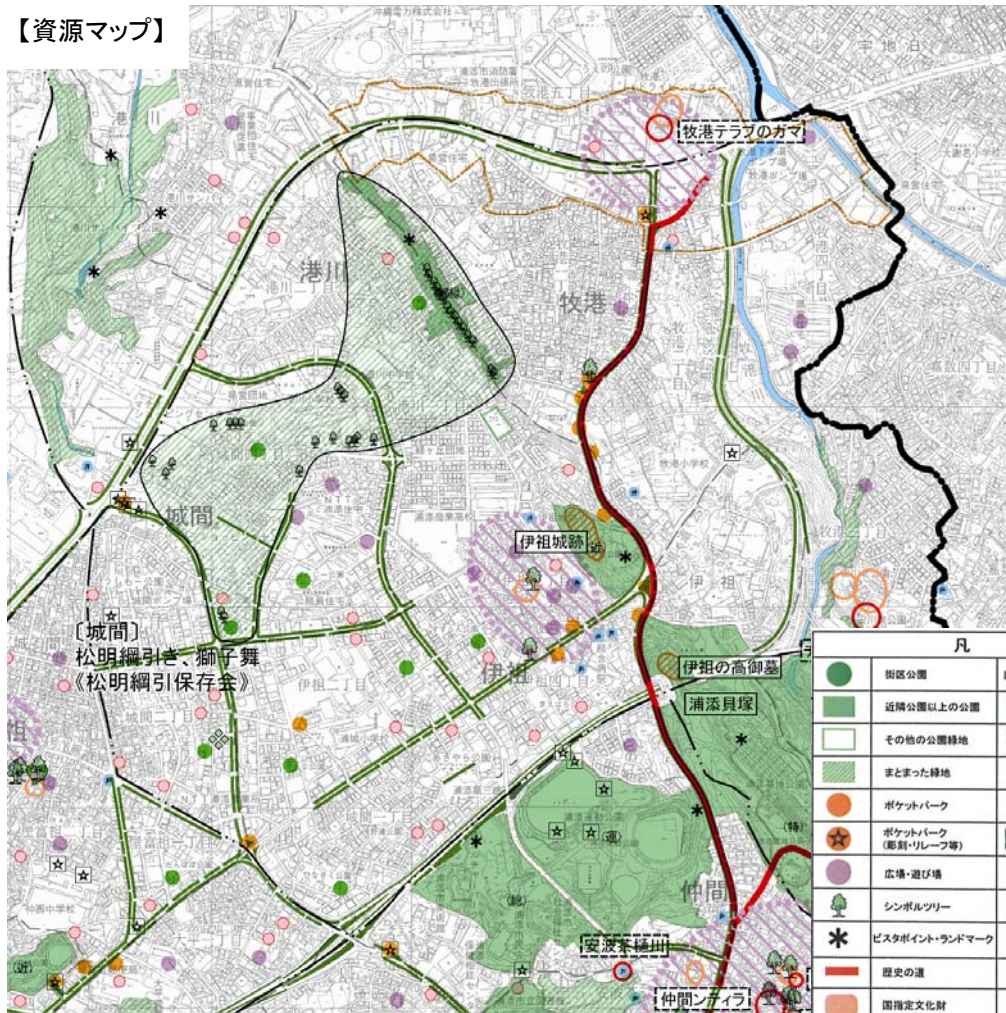


地域を構成する大字
伊祖、牧港、港川、城間、仲間、当山

地域資源

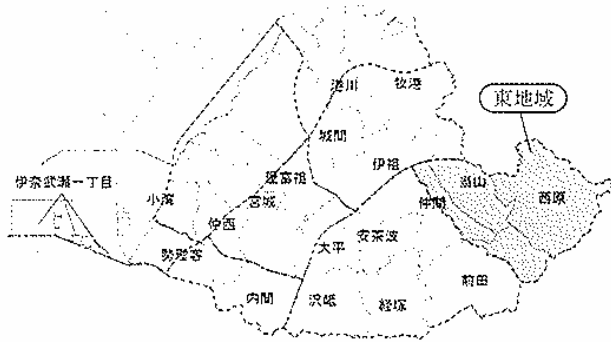
| | |
|----------|---|
| 水・緑 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 牧港川 ・ 牧港緑地、伊祖公園、浦添大公園、まちなと公園、浦城公園、かんかな公園、すみれ公園、ひなぎく公園、すずらん公園 |
| 歴史・文化 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 伊祖城跡、伊祖の高御墓、浦添貝塚、チシフチャー洞穴遺跡 ・ 各地の御嶽、樋川、拝所 |
| 場・コミュニティ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 牧港公民館、浅野浦公民館、伊祖公民館、マチナトタウン自治会、安川団地自治会、浦添市街地住宅集会所 ・ 港川小学校、牧港小学校、浦城小学校、港川中学校 |
| 主な施設 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 国道58号、国道330号、パイライン、学園通り、サンパーク通り ・ 浦添商業高校、税関牧港出張所、牧港交番、牧港郵便局、伊祖郵便局、城間郵便局、浦添市民テニスコート ・ 浦添総合病院、浦添海邦病院、嶺井第3病院 |

【資源マップ】



| 凡 例 | | | |
|-----|-------------------|---|-------------------------|
| ● | 街区公園 | — | 種数のある歩道 |
| ■ | 近隣公園以上の公園 | — | 河 川 |
| □ | その他の公園緑地 | ■ | サンゴ礁のすぐれた自然 |
| ■ | まとまった緑地 | □ | 地区計画 |
| ○ | ポケットパーク | ■ | 緑のフェスタ |
| ☆ | ポケットパーク (彫刻・リレー等) | ■ | まちづくりプラン賞 (受賞団体の主な活動場所) |
| ○ | 広場・遊び場 | ● | 都市景観賞 |
| ■ | シンボルツリー | ☆ | 3Dマップ (彫刻等) |
| * | ビスタポイント・ランドマーク | 井 | 井泉 |
| — | 歴史の道 | ○ | 拝所等 |
| ■ | 国指定文化財 | ■ | 村まつり |
| ■ | 県指定文化財 | ■ | 大正10年頃の集落 |
| ■ | 市指定文化財 | ■ | 接7字の芸能及び保存会等 (浦添市史より) |

3. 東地域

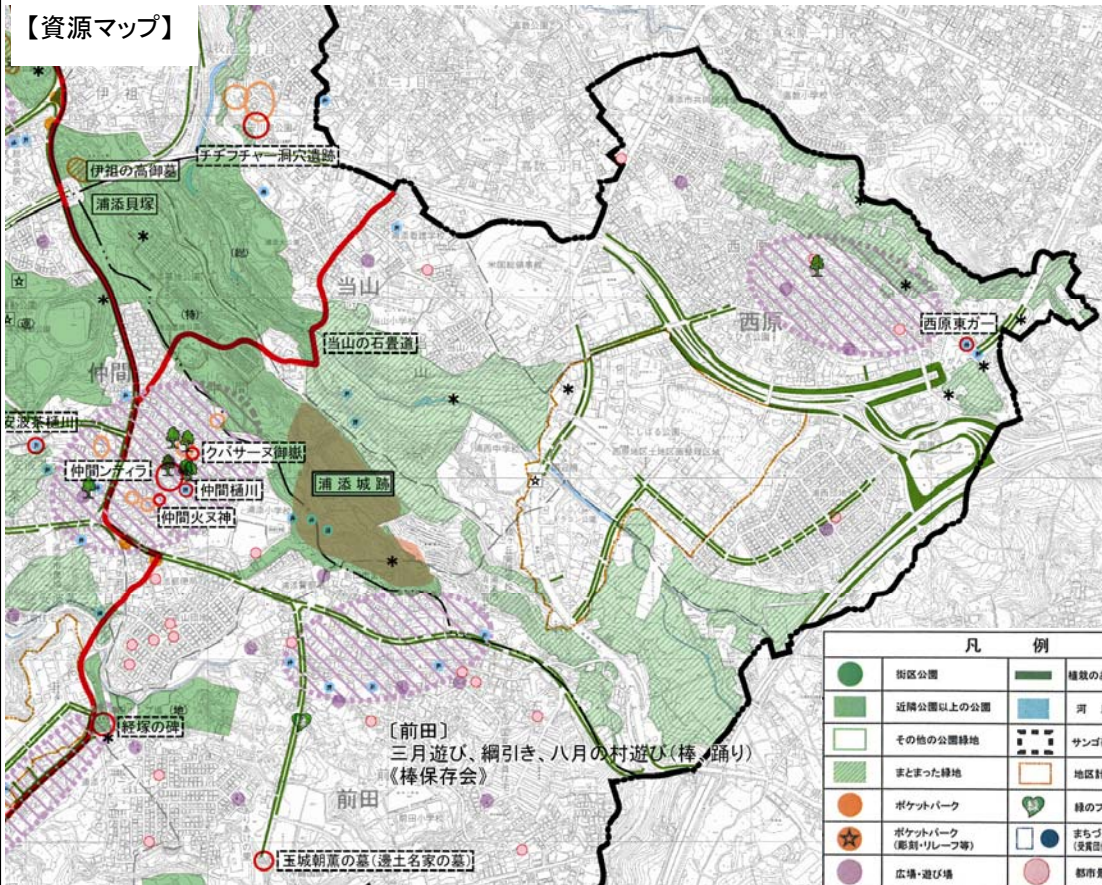


地域を構成する大字
西原、当山、前田、仲間、伊祖

地域資源

| | |
|----------|--|
| 水・緑 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 牧港川、宇地泊川(比屋良川)、河川沿い斜面緑地 ・ 浦添大公園、浦添墓地公園 |
| 歴史・文化 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 浦添グスク、浦添貝塚、当山の石畳道、西原東ガー ・ 各地の御嶽、樋川、拝所 |
| 場・コミュニティ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 西原公民館、かりゆしセンター、当山公民館、浦西団地集会所、広栄公民館 ・ 当山小学校、浦西中学校 |
| 主な施設 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 国道330号、県道38号線、県道241号線 ・ 浦添看護学校、鏡が丘養護学校、西原児童センター、県医療福祉センター、浦添消防本部、西原郵便局、米国総領事館 ・ 嶺井第2病院 |

【資源マップ】



| 凡 例 | | | |
|-----|-------------------|---|------------------------|
| ● | 街区公園 | — | 種数のある歩道 |
| ■ | 近隣公園以上の公園 | — | 河 川 |
| □ | その他の公園緑地 | ■ | サンゴ礁のすぐれた自然 |
| ■ | まとまった緑地 | □ | 地区計画 |
| ● | ポケットパーク | ● | 緑のフェスタ |
| ● | ポケットパーク (彫刻・リレー等) | ● | まちづくりプラン策 (民間団体の主な活動場) |
| ● | 広場・遊び場 | ● | 都市景観賞 |
| ● | シンボルツリー | ☆ | ストリート・アーティスト (彫刻等) |
| * | ビスタポイント・ランドマーク | 井 | 井泉 |
| — | 歴史の道 | ○ | 拝所等 |
| ■ | 国指定文化財 | ◆ | 村まつり |
| ■ | 県指定文化財 | ● | 大正10年頃の集落 |
| ■ | 市指定文化財 | ● | ※7字の芸術及び保存会等 (諸語市史より) |

4. 中央南地域



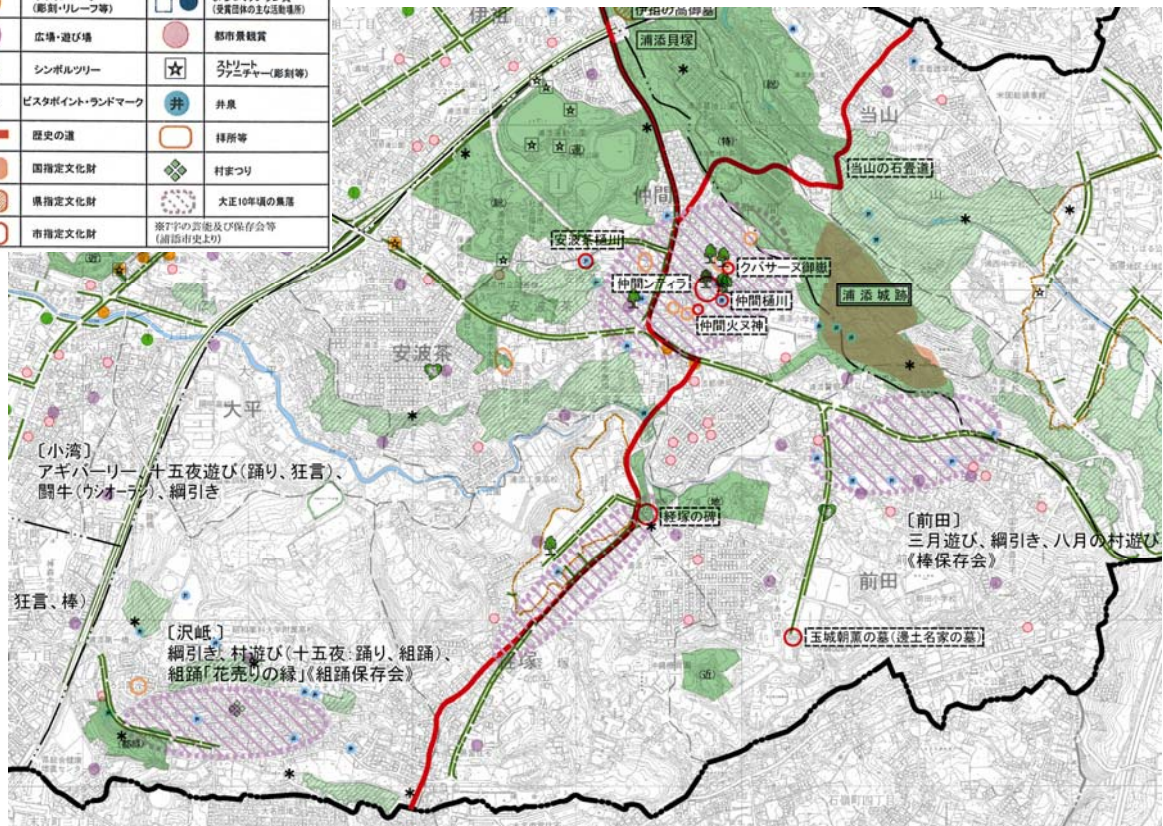
地域を構成する大字
安波茶、仲間、前田、経塚、大平、沢岷
伊祖

地域資源

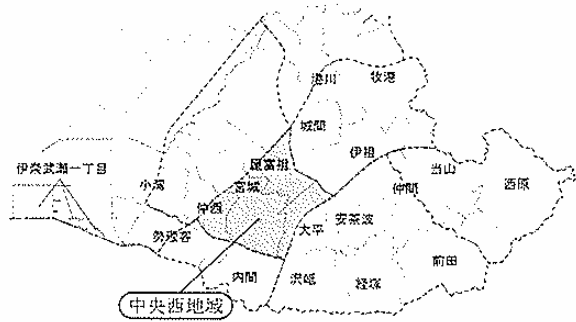
| | |
|----------|---|
| 水・緑 | <ul style="list-style-type: none"> 小湾川、沢岷川 浦添運動公園、浦添カルチャーパーク、クニンドーの森公園、前田公園、経塚公園 |
| 歴史・文化 | <ul style="list-style-type: none"> 浦添グスク、浦添貝塚、クバサーヌ御嶽、仲間樋川、仲間ンテラ、仲間火又神、安波茶樋川、経塚の碑、玉城朝薫の墓 各地の御嶽、樋川、拝所 |
| 場・コミュニティ | <ul style="list-style-type: none"> 浦添市中央公民館、仲間自治会館、安波茶自治会館、前田自治会館、経塚公民館、沢岷公民館、ニュータウン自治会公民館、茶山集会所、前田住宅集会所、前田市営住宅集会所、安波茶市営住宅集会所、浦添グリーンハイツ集会所 浦添小学校、前田小学校、沢岷小学校、浦添中学校 前田三月遊び、綱引き、八月村遊び(棒、踊り)、沢岷綱引き、村遊び(十五夜、踊り、組踊「花売りの縁」) |
| 主な施設 | <ul style="list-style-type: none"> 国道330号、県道38号線、県道153号線、沢岷石嶺線 浦添市役所・水道局、市消防本部、てだこホール、市立図書館、浦添美術館、ハーモニーセンター、浦添グスク・よどれ館、市民体育館・陸上競技場、多目的屋外・屋内運動場、ゲートボール場、特別養護老人ホームありあけの里、市老人福祉センター、市保健相談センター、沖縄療育園、沖縄国際センター、浦添警察署、仲間交番、浦添郵便局、前田郵便局、沢岷郵便局 昭和薬科大学付属中学校、浦添工業高校、陽明高校、鏡が丘養護学校浦添分校、浦添職業能力開発学校、嶺井第一病院、平安病院、ジスタス浦添 |

【資源マップ】

| 凡 例 | | | |
|-----|-----------------------|--|----------------------------|
| | 街区公園 | | 種類のある歩道 |
| | 近隣公園以上の公園 | | 河 川 |
| | その他の公園緑地 | | サンゴ礁のすぐれた自然 |
| | まとまった緑地 | | 地区計画 |
| | ポケットパーク | | 緑のフェスタ |
| | ポケットパーク (彫刻・レリーフ等) | | まちづくりプラン賞 (受賞団体の主な活動場所) |
| | 広場・遊び場 | | 都市景観賞 |
| | シンボルツリー | | ストリート テクニチャー(彫刻等) |
| | ビスタポイント・ランドマーク | | 井泉 |
| | 歴史の道 | | 拝所等 |
| | 国指定文化財 | | 村まつり |
| | 県指定文化財 | | 大正10年頃の集落 |
| | 市指定文化財 | | ※7字の芸術及び保存会等 (前田市史より) |



5. 中央西地域



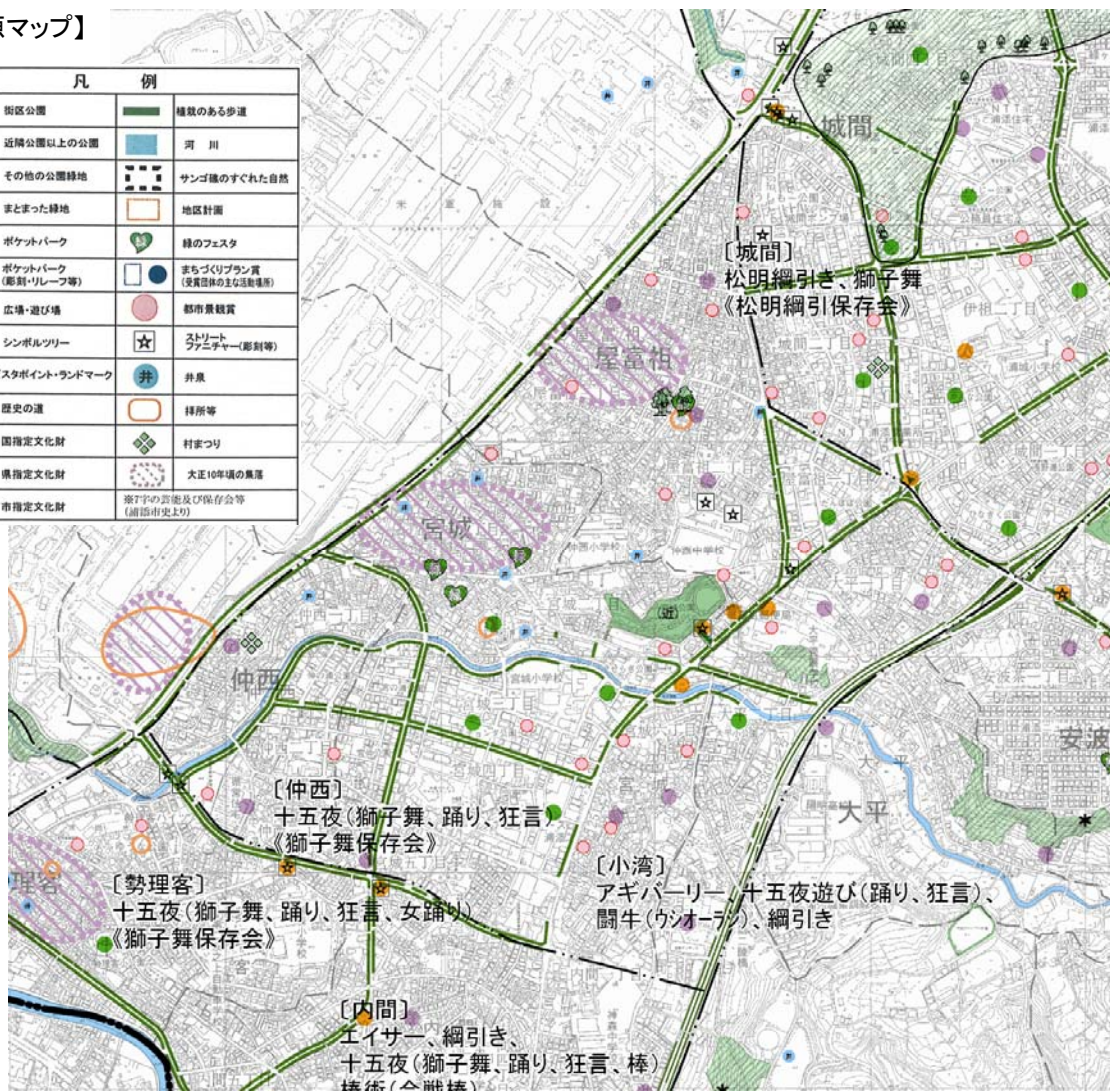
地域を構成する大字
屋富祖、城間、宮城、仲西、大平、沢岨、
内間、勢理客

地域資源

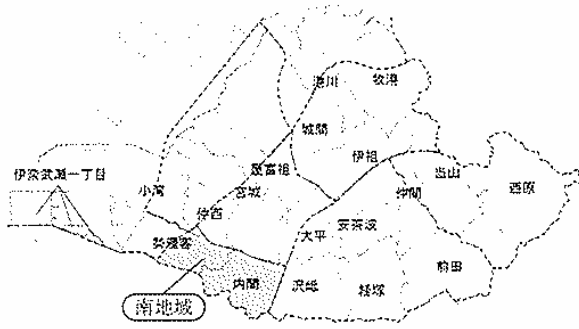
| | |
|----------|---|
| 水・緑 | <ul style="list-style-type: none"> 小湾川 屋富祖大ガジュマル、宮城公園、せせらぎ公園、大平小公園、チョンダ公園 |
| 歴史・文化 | <ul style="list-style-type: none"> 各地の御嶽、樋川、拝所 |
| 場・コミュニティ | <ul style="list-style-type: none"> 仲西公民館、宮城公民館、城間公民館、大平公民館、屋富祖公民館、小湾自治会館、神森団地集会所 仲西小学校、宮城小学校、仲西中学校 城間松明綱引き、獅子舞、仲西十五夜(獅子舞、踊り、狂言)、小湾アギバーリー、十五夜遊び(踊り、狂言)、闘牛、綱引き |
| 主な施設 | <ul style="list-style-type: none"> 国道58号、国道330号、県道38号線(屋富祖大通り)、沢岨石嶺線、パイプライン、 大平養護学校、沖縄高等理容学院、琉球調理師専門学校、沖縄心身障害者職業センター、てだこ学園大学院、宮城ケ原児童センター、沖縄コロニーセンター、サンアビリティ浦添、北那覇税務署、城間交番、屋富祖郵便局、大平郵便局、同仁病院 |

【資源マップ】

| 凡 例 | | | |
|-----|----------------------|--|----------------------------|
| | 街区公園 | | 橋がある歩道 |
| | 近隣公園以上の公園 | | 河川 |
| | その他の公園緑地 | | サンゴ礁のすぐれた自然 |
| | まとまった緑地 | | 地区計画 |
| | ポケットパーク | | 緑のフェスタ |
| | ポケットパーク (彫刻・リレー等) | | まちづくりプラン賞 (受賞団体の主な活動場所) |
| | 広場・遊び場 | | 都市景観賞 |
| | シンボルツリー | | ストリート フアンニチャー(彫刻等) |
| | ビスタポイント・ランドマーク | | 井泉 |
| | 歴史の道 | | 拝所等 |
| | 国指定文化財 | | 村まつり |
| | 県指定文化財 | | 大正10年頃の集落 |
| | 市指定文化財 | | 漢字の書体及び保存会等 (前田市史より) |



6. 南地域

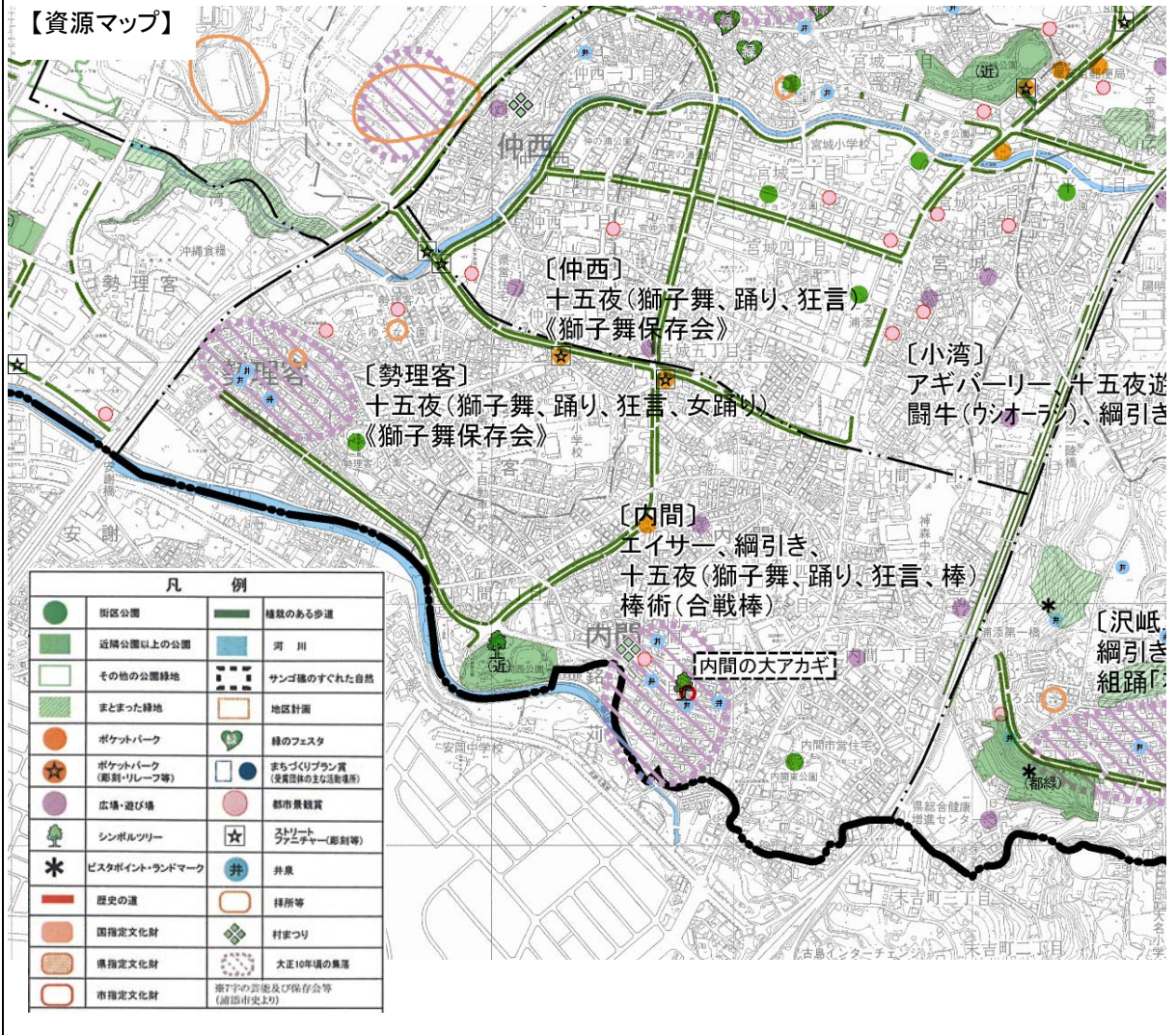


地域を構成する大字
内間、勢理客、沢岬、宮城、仲西、小湾

地域資源

| | |
|----------|--|
| 水・緑 | <ul style="list-style-type: none"> 小湾川、安謝川 内間の大アカギ、内間西公園、内間東公園、勢理客小公園 |
| 歴史・文化 | <ul style="list-style-type: none"> 各地の御嶽、樋川、拝所 |
| 場・コミュニティ | <ul style="list-style-type: none"> 内間公民館、勢理客公民館 神森小学校、内間小学校、神森中学校 内間エイサー、綱引き、獅子舞、十五夜(獅子舞、踊り、狂言、棒)、勢理客十五夜遊び(獅子舞、踊り、狂言、女踊り) |
| 主な施設 | <ul style="list-style-type: none"> 国道58号、国道330号、沢岬石嶺線、パイプライン 浦添高校、税務大学校沖縄研修支所、内間児童センター、地域福祉センター、浦添社会保険事務所、内間交番、内間郵便局、勢理客郵便局、浦添市消防内間出張所 |

【資源マップ】



7. 軍用地地域



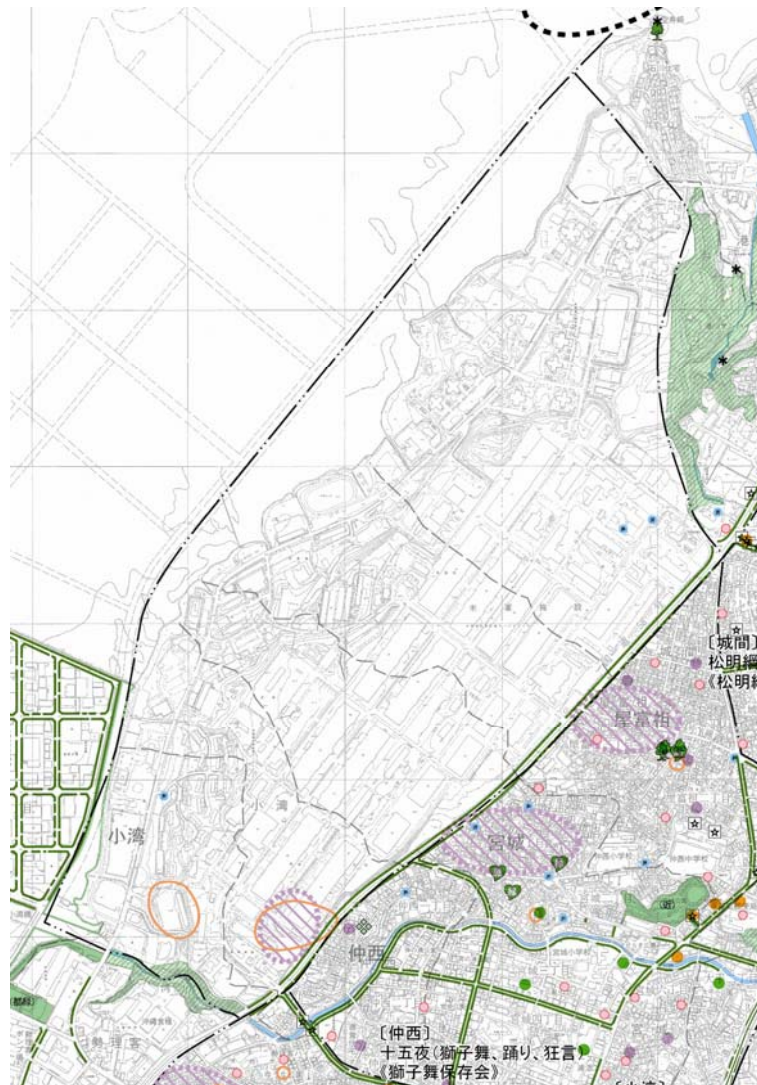
地域資源

| | |
|----------|------------------------------|
| 水・緑 | ・ シリン川、小湾川及び河口部の緑地 ・ 自然海岸 |
| 歴史・文化 | ・ 旧集落跡 |
| 場・コミュニティ | — |
| 主な施設 | ・ キャンプキンザー(牧港サービスエリア) |

地域を構成する大字
港川、城間、屋富祖、宮城、仲西、小湾

【資源マップ】

| 凡 例 | | | |
|-----|----------------------|--|----------------------------|
| | 街区公園 | | 種数のある歩道 |
| | 近隣公園以上の公園 | | 河 川 |
| | その他の公園緑地 | | サンゴ礁のすぐれた自然 |
| | まとまった緑地 | | 地区計画 |
| | ポケットパーク | | 緑のフェスタ |
| | ポケットパーク (彫刻・リレー等) | | まちづくりプラン賞 (支店団体の主な活動場所) |
| | 広場・遊び場 | | 都市景観賞 |
| | シンボルツリー | | ストリート フアンチャー(彫刻等) |
| | ビスタポイント・ランドマーク | | 井 泉 |
| | 歴史の道 | | 拝所等 |
| | 国指定文化財 | | 村まつり |
| | 県指定文化財 | | 大正10年頃の集落 |
| | 市指定文化財 | | 築7年の遊園及び保存会等 (諸語由史より) |



8. 西地域



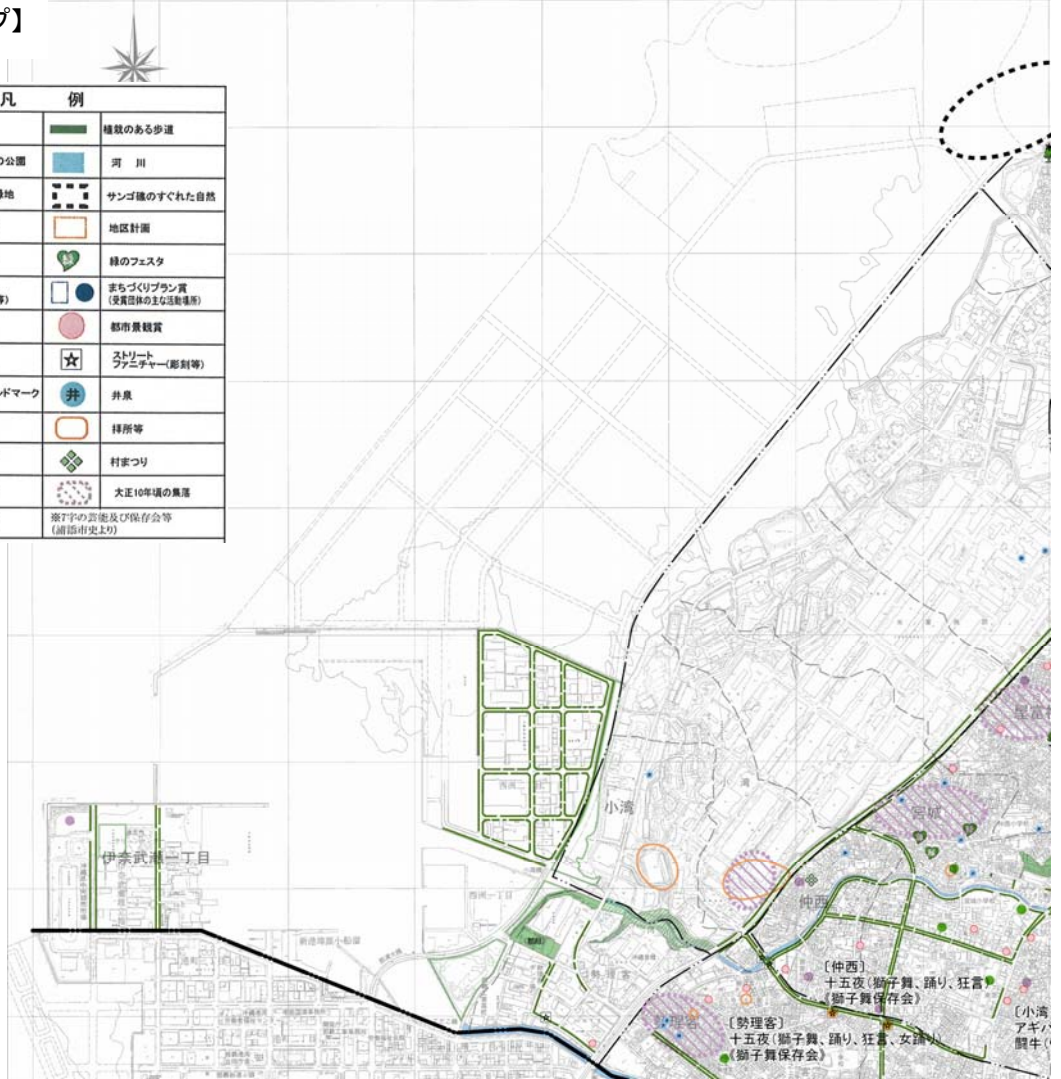
地域資源

| | |
|----------|---|
| 水・緑 | <ul style="list-style-type: none"> 小湾川及び河口部の緑地 西海岸ウォーターフロント |
| 歴史・文化 | — |
| 場・コミュニティ | — |
| 主な施設 | <ul style="list-style-type: none"> 那覇工業高校、国立劇場おきなわ、中央卸売市場、波浪海岸観測所、沖縄総合事務局那覇港工事事務所浦添出張所、市クリーンセンター、リサイクルプラザドリーム21、伊奈武瀬球場、浦添市産業振興センター・結の街、NTT |

地域を構成する大字
勢理客、西洲

【資源マップ】

| 凡 例 | | | |
|-----|----------------------|--|----------------------------|
| | 街区公園 | | 橋載のある歩道 |
| | 近隣公園以上の公園 | | 河川 |
| | その他の公園緑地 | | サンゴ礁のすぐれた自然 |
| | まとまった緑地 | | 地区計画 |
| | ポケットパーク | | 緑のフェスタ |
| | ポケットパーク (彫刻・リレー等) | | まちづくりプラン賞 (受賞団体の主な活動場所) |
| | 広場・遊び場 | | 都市景観賞 |
| | シンボルツリー | | ストリート フアンチャー(彫刻等) |
| | ビスタポイント・ランドマーク | | 井泉 |
| | 歴史の道 | | 拝所等 |
| | 国指定文化財 | | 村まつり |
| | 県指定文化財 | | 大正10年頃の集落 |
| | 市指定文化財 | | ※7字の芸術及び保存会等 (浦添市史より) |



4. 浦添の景観特性と課題の整理

(1) 景観特性と課題の整理

これまで既存資料等で把握してきた本市の景観資源を参考にしながら、市民会議で現地視察を行いました。視察後、引き続きワークショップを行い、本市の景観特性と課題検討図を作成しました。これらの検討を踏まえて、空間類型ごとに本市の景観特性と課題を整理しました。

■ 空間類型ごとの本市の景観特性と課題

| 空間類型 | 特 性 | 課 題 |
|-------------|---|--|
| 1. 緑地 | <ul style="list-style-type: none"> 浦添断層崖、シリン川沿い及び市南部の丘陵地の緑地は、都市域において極めて少ない自然緑地で構成され、骨格的なグリーンベルトとなっている。 市南東部、小湾川中流域(大平・沢岬)の斜面緑地や河口部の緑地は都市域での貴重な緑地景観となっている。 | <ul style="list-style-type: none"> 都市化の進行により、緑地部分にも開発の手が伸び、年々緑地が減少していく傾向にあり、今後その保全・育成が課題となる。特に、民間墓園や調整区域における土石等の採取などについての対応が課題である。 河川・臨海部については、今後の計画の中で緑地部分の確保を図っていく必要がある。 |
| 2. 河川・水際線 | <ul style="list-style-type: none"> 本市には、牧港川、シリン川、小湾川、安謝川の4河川がある。現在市街化が進む中で漸次河川改修が行われている。 7~8km に渡る海岸線は、勢理客、牧港地先が港湾、漁港区域として整備され、空寿崎周辺では自然海岸が残り、貴重な親水空間となっている。しかし、大半は軍用地の立地により閉ざされている。今後、海岸域での良好な景観形成と親水性の確保が期待される。 臨海部は、本市総合計画のプロジェクトVの1つであるマントピア浪漫プランに位置づけられた地域であり、今後海を活かした文化と活力ある都市として整備が期待されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 都市における水辺空間は、市民生活にうおいとやすらぎを与えるとともに、街並みを印象づける要素として大変貴重であり、河川・水際線はその一翼を担う資源として親水性や水辺景観に充分配慮した整備を行う必要がある。・河川は、道路とともに都市内において数少ない通景を確保する資源であり、そうした面に配慮した景観形成を図っていく必要がある。 本県の特性である海岸景観に配慮し、市民や来訪者に親しまれる海浜空間を創出していく必要がある。 |
| 3. 歴史・文化・交流 | <ul style="list-style-type: none"> 伊祖城跡から浦添城跡にかけての一带は、先史時代から古琉球にいたるまでの貴重な遺跡が数多く分布する地域で、なかでも伊祖城跡は英祖王の出生地、浦添城跡は舜天-英祖-察度の三王統の居城であり、それぞれ琉球王統発祥のゆかりの地として特筆されるものである。 この他、歴史的資源としては、為朝伝説由来の地である牧港テラブのガマや王府時代の官道にあたる宿次のみち(石橋や石畳道が一部で残存)、かつての集落と密接なかかわりのあった湧泉等が市内各所に点在している。 市役所から市民会館、浦添運動公園にかけての一带は、行政・文化・ふれあい空間の拠点地形成が進められており、シビックセンターとして一層充実していくものと思われる。 | <ul style="list-style-type: none"> 伊祖城跡から浦添城跡にかけては、公園整備が進められており、今後ともその歴史性に配慮しながら整備していく必要がある。特に建物の色の統一を図る必要がある。 市内に点在する歴史的資源は、今後市街地形成の進行する中で大切に保全し、散策路の整備によるネットワーク化等有効的に活用していく必要がある。 市民や県民のふれあいの場となるコミュニティセンターゾーンは、周辺市街地との連絡に配慮し、個性豊かな空間として整備していく必要がある。 |
| 4. 道路軸 | <ul style="list-style-type: none"> 本市の骨格的な道路ネットワークは、主要幹線道路となる国道58号、330号と幹線道路となる県道241号線、38号線、153号線で構成される。この他、西海岸道路や都市内を結ぶ幹線的な都市計画街路が計画され、都市内環状線が構築されつつある。 これらの道路軸には、それぞれの沿道で特色ある街路景観がみられ、国道58号沿道では、商業・業務地と基地景観、国道330号沿道では、地形を分断する形で建設されたということもあって、地形的に変化に富んだ沿道景観となっている。また、県道レベルでは、38号線、153号線とも商業地から住宅地への移り変わる景観とともに、国道330号より東側では海への眺望も開けている。 | <ul style="list-style-type: none"> 幹線道路は、外来者に対して最初に浦添らしさを印象づける大切な地点となる。したがって、市の境界付近では、シティゲートとしてのイメージアップが必要であり、また、沿道の不揃いな建物形状や色彩、看板、ネオン等は工夫が必要である。 うるおいと親しみのもてる道は、市民生活においても、来訪者にとっても重要であり、そうした視点より道づくりを進める必要がある。 生活道路は、急速に市街化が進行したこともあって、未整備地域もかなり残している。 |

| | | |
|-----------|--|--|
| 5. 伝統集落地 | <ul style="list-style-type: none"> ・南斜面地に位置し、背後に緑地(クサティ森)を擁する集落の立地形態は、沖縄における伝統的な集落の典型である。本市にあっても伊祖、仲間、前田、沢岬、西原にはこうした沖縄の原風景とも言える集落形態が現在でも残っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活環境の向上を図りつつ、建物の統一感などにより、伝統的な集落景観を保全していく必要がある。 ・集落背後の緑地は、古い集落景観の重要な構成要素の1つであり、保全・育成を図っていく必要がある。 |
| 6. 住宅市街地 | <ul style="list-style-type: none"> ・国道 330 号を境に大きく2つのタイプに分類される。北西側は、基地化・都市化の影響を最初に受け、都市基盤整備が行われる前にスプロール的に宅地化が進行し、道路網等が無秩序で密集住宅地となっている。南東側は、40 年代以降の住宅団地の開発によって形成された住宅地である。 ・一部地域では、建築協定等による住民自らの手によるまちづくりも行われている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・密集地域でのオープンスペースの確保、安全で快適な道づくり等により良好な沿道景観及び居住空間を創出していく必要がある。 ・面的整備を推進するにあたっては、緑化協定や建築協定等協定締結を積極的に指導・助言することにより、住民参加の景観形成に資する必要がある。 |
| 7. 新市街地 | <ul style="list-style-type: none"> ・城間・伊祖、大宮、西原など区画整理完了地区と、浦添南第1や浦添南第2の進行中或いは予定地域の2つに大きく分類される。前者の地域では、オープンスペースの確保や街路樹、各家々での緑化等により良好な居住環境が整備されつつある。後者の地域では、自然緑地もかなり残っており、こうした資源を活かした居住環境の整備が期待される。 | <ul style="list-style-type: none"> ・新しいまちが形成されていくあるいはこれから形成されるところであり、個々の地域特性や新たなコミュニティの求心性を活かしながら景観形成を図っていく必要がある。 ・面的整備を推進するにあたっては、緑化協定や建築協定等協定締結を積極的に指導・助言することにより、住民参加の景観形成に資する必要がある。 |
| 8. 商業業務地 | <ul style="list-style-type: none"> ・国道 58 号沿道は、勢理客、牧港付近で本社機能を有する業務地が集積している。 ・屋富祖商店街は、戦後基地の立地とともに形成され、長年本市の中心商店街の役割を果たしてきた。しかし、近年街路狭小に加え、他地域での大型店舗が進出し、商業機能は低下している。 ・パイプラインは、近隣商業地域として地域住民の買物空間の整備が漸次進行し、北側の地域では整然とした街並が形成されつつある。 ・西原一帯では、隣接する宜野湾市と連担し、市内外の商業サービスにおいて重要な役割が期待される。 ・安波茶付近は、市役所をはじめ消防署、中央公民館等市の行政・文化施設が集積し、行政センターとなっている。北西斜面地に立地していることもあって海への眺望が開けている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・国道 58 号沿道では、商業系、工業系が混在して立地しており、土地利用の適正化を図っていく中で、色彩や形状、看板、ネオン等を景観上調和のとれたものとしていく必要がある。 ・屋富祖商店街は、その再活性化を図るため、ゆとりのある買物環境を創出していく必要がある。 ・パイプラインは、今後地域の新しい商業空間として、地域特性を活かした個性ある沿道景観を創出していく必要がある。 ・西原一帯は、境界線領域において市内外の新しい商業空間としての機能がきたいされる。 ・市役所を中心とする行政センター一帯の空間は、今後とも市民にとって親しみのある空間とするために周辺一帯の整備を推進していく必要がある。 |
| 9. 工業・流通地 | <ul style="list-style-type: none"> ・牧港に立地する電力会社は、沿岸部分のかなりの面積を占めるとともに、施設は同地域のランドマーク並びに市北部のシティゲートのものとなっている。 ・また、那覇港浦添ふ頭地域は、一大流通拠点の整備がなされている。 ・牧港の漁港区域と那覇港浦添ふ頭域があり、大規模な埋立計画も漸次進められ、一大港湾地域の形成が目指されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・電力会社の諸施設は見た目にも望ましい景観とは言えず、色彩の工夫や緑化等による修景を図っていく必要がある。 ・今後整備される流通拠点については、景観に十分配慮した施設整備を図っていく必要がある。 ・市民にとっては、貴重な水辺空間であるにもかかわらず、従来の港湾にみられる閉鎖的で近寄り難い空間となっており、今後、オープンスペースの確保、親水空間の創出、緑化の推進等により市民にとって親しみやすく、気軽に出入り出来る港湾空間を創出していく必要がある。 |
| 10. 軍用地 | <ul style="list-style-type: none"> ・本市の海岸部の大半を占める軍用地は、これまで金網越しに軍用施設と景観上好ましくない状況にあったが、国道 58 号沿道で緑化により修景が図られている。また、海岸部では高層の住宅団地が建設されており、新たな景観が形成されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・軍用地については、今後本市の良好な景観形成に資するよう、基地内の遺構も含めて、協働で跡地利用計画を進めていく必要がある。 |

(2) 特性と課題を踏まえて

本市はこれまで、市独自の取り組みにより市民との協働による景観行政を実践することで、大きな実績を積み重ねてきました。しかしながら一方で、本市の景観特性・課題が必ずしも市民や事業者ひとり一人に広く認知され、理解されるまでには至っていないことも事実です。

斜面地開発による緑地の喪失や、沿道景観の不統一、歴史的集落地区での歴史的地区になじまない形態や落ち着きのない色彩の出現などが現在も進行している状況を見ると、うなずけることです。

このことは、これまで景観行政を進めていくにあたって、法的な環境が十分でなかったことも大きな要因となっていました。したがって、平成 17 年に景観法が全面施行されたことに伴い、本市は県内でもいち早く景観行政団体となりました。

法の後ろ盾を得ながら、協働により景観形成の体系や実現のしくみを構築するとともに、景観まちづくりを支える市条例を制定し、これまで取り組んできた協働の景観まちづくりをより強力に押し進めていくために、以下では本市の景観まちづくりの方針及び基準等を取りまとめることとします。